



新年のご挨拶

病院長
新家 真



新年明けましておめでとう御座います。

平成25年（2013年）巳年が始まりました。

平成23年の東日本大震災の影響も未だ冷めやらぬ平成24年も、原子力発電所問題、景気対策、尖閣・竹島問題等何も片付かぬまま、消費税が上がることになっての年の瀬の衆議院解散総選挙と、素人目にも世の流れの混乱は明らかで民主・自民・第三極の何れが勝利しても2013年の日本の医療だけは、より良くなって欲しいと思う今日此の頃です。

大晦日に各家庭で大掃除をするという習慣は、今はもう廃れたかもしれませんが、昭和30年代の石川県金沢市では、まだ一般的に行われていました。物の本によれば、この習慣は自然発生したものではなく、古代中国の大晦日の大掃除は家中をきれいにするだけでなく、家に住みついた貧乏神を追い払う事ができると信じられていた（迷信？）ことに派生するそうです。貧乏神は「窮」と呼ばれたそうですが、そう簡単には出て行ってくれないのは古今東西を問わない訳で、「万戸千門を見るに、人の窮を送ざる無し」云々とか「只是空しく相送るのみにて、年々門を出ず」とか言う貧乏神「窮」との戦いぶりを漢詩にした人（唐の姚合）まで居た訳です。この「窮」はどこにでもいる訳で、戸々の家のみではなく、上はこの国の医療システムの中にも住みついてますし、下は各病院にまで住みついてる訳です。この貧乏神「窮」にいかにして出て行ってもらおうかという事は、何処においても重要事となります。

当公立学校共済組合関東中央病院は、平成24年度の丁度真ん中（平成24年10月）の時点で、世田谷区唯一の地域医療支援病院の承認を得る事が出来ました。この制度の詳細について述べる余裕はありませんが、地域の先生方と病院との連携をより密にし、病院全体として地域医療の充実に向けて邁進しようというスタンスを明らかにしたものです。もちろん地域医療支援病院としての万全の態勢を確立するには、それなりのソフトウェア、ハードウェアの充実が不可欠であり、又そのソフトウェア確立のためには、いろいろな経験とそのフィードバックも不可欠です。現時点では地域医療支援病院としての公立学校共済組合関東中央病院はまだよちよち歩きの子供という状態かもしれませんが、地域の先生方の御支援と御指導、そして地域の皆様の御理解をもって、世田谷区民又は城南地区の地域住民の皆様のための病院として成長・発展していければと念じています。その過程では「窮」のいない病院として運営していくことが大事であることは言うまでもありません。

平成25年癸巳の年が地域の皆様に取りましても、又日本にとりましても良き年となりますよう心から祈りたいと思います。

平成25年 元旦

